

第3回徳島県公立高等学校の在り方検討会議入試制度部会の概要について

1 日 時 令和8年1月27日（火）午後1時30分から午後3時30分まで

2 場 所 徳島県庁 9階 教育委員室（徳島市万代町1丁目1番地）

3 出席者

- (1) 委員 全委員8名出席
- (2) 県 教育次長、教育創生課長 ほか

4 議 題

- (1) 多様な能力を評価する選抜方法に関すること
- (2) 高校入試における Web 出願システムについて
- (3) その他

5 意見交換における主な発言概要

【多様な能力を評価する選抜方法に関すること】

- 現行の育成型選抜では、競技・分野によって募集校が限られ、「行きたい学校」を選択しにくい状況が生じていると考える。生徒の主体的な進路選択に資する制度設計を検討する必要があるのではないか。
- 学区撤廃を見据え、普通科高校においてもスクール・ポリシーに基づく多様な募集の在り方を検討するとともに、小・中学校段階の地域学習等との接続を意識した人材育成の視点を重視する必要がある。
- 部活動の地域展開や教職員の働き方改革の進展を踏まえ、現行制度を前提としつつ、運動分野に偏っている現状を見直し、生徒の個性を伸長するためにも、運動分野の枠を残しつつ、他の分野を拡大するなど、生徒の多様な能力や主体的な活動を評価できる育成型選抜の在り方を検討すべきと考える。
- 生徒の多様な能力や主体的な活動を評価するため、運動分野の枠を残しつつ、他の分野を拡大するなど、より多くの生徒が希望できる方向で検討すべきと考える。
- 現在の育成型選抜における活動重視枠の募集人員を各高等学校の特色（スクール・ポリシー）に応じて、学校裁量で枠を変動させても良いと考える。
- 入試日程の設計に当たっては、受検機会確保の観点も重要であると考え。複数回受検を可能とする仕組みとして、DA方式（受入保留アルゴリズム）を一つの選択肢として検討し、そのメリット・デメリットを整理した上で制度導入の可能性を探る必要がある。
- 育成型選抜と一般選抜の日程を一本化する場合は、出願手続や進路面談等の業務が短期間に集中して中学校・高等学校双方の事務負担が増大するおそれがあるほか、育成型選抜の実施時期が後ろ倒しとなる場合には、運動分野の志願者が県外や私立へ流出する懸念もある。

【高校入試における Web 出願システムについて】

- Web 出願システムの導入に当たっては、個人情報適切な管理を徹底した上で、導入準備に要する期間等も踏まえ、計画的に整備・運用を進める必要がある。
- 生徒自身が出願手続きを行うことになれば、主体的な進路選択や自立を促す契機になることが期待される。